

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2023年11月9日

【四半期会計期間】 第22期第2四半期(自 2023年7月1日 至 2023年9月30日)

【会社名】 あんしん保証株式会社

【英訳名】 Anshin Guarantor Service Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 雨坂 甲

【本店の所在の場所】 東京都品川区東品川四丁目12番4号

【電話番号】 03-6627-3440(代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員管理部担当 中西 光明

【最寄りの連絡場所】 東京都品川区東品川四丁目12番4号

【電話番号】 03-6627-3440(代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員管理部担当 中西 光明

【縦覧に供する場所】 あんしん保証株式会社大阪支店
(大阪市北区梅田一丁目1番3号)
株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第21期 第2四半期 累計期間	第22期 第2四半期 累計期間	第21期
会計期間		自 2022年4月1日 至 2022年9月30日	自 2023年4月1日 至 2023年9月30日	自 2022年4月1日 至 2023年3月31日
営業収益	(千円)	2,217,062	2,380,888	4,497,713
経常利益	(千円)	325,861	276,133	677,471
四半期(当期)純利益	(千円)	217,803	182,878	471,700
持分法を適用した場合の投資利益	(千円)			
資本金	(千円)	680,942	680,942	680,942
発行済株式総数	(株)	17,976,600	17,976,600	17,976,600
純資産額	(千円)	1,912,983	2,133,790	2,165,805
総資産額	(千円)	8,492,128	10,033,957	9,474,368
1株当たり四半期(当期)純利益金額	(円)	12.12	10.44	26.24
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)			
1株当たり配当額	(円)			3.00
自己資本比率	(%)	22.5	21.2	22.8
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	204,354	7,760	185,946
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	8,104	16,897	50,876
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	103,431	118,120	53,731
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)	1,373,831	1,219,572	1,362,351

回次		第21期 第2四半期 会計期間	第22期 第2四半期 会計期間
会計期間		自 2022年7月1日 至 2022年9月30日	自 2023年7月1日 至 2023年9月30日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	8.66	7.89

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等については記載しておりません。
2. 持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社がないため記載しておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期累計期間において、当社において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が当社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があるとして認識している主要なリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当第2四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

(1) 経営成績等の状況の概要

当第2四半期会計期間における当社の財政状態及び経営成績（以下、「経営成績等」という。）の状況の概要は次のとおりであります。

財政状態及び経営成績の状況

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、雇用情勢の改善や個人消費・設備投資等の持ち直しにより穏やかな回復が継続したものの、物価上昇による実質賃金の減少や世界的な金融引締めやエネルギー価格の高騰等で、先行き不透明な状況となっております。

賃貸住宅市場におきましては、令和5年9月の新設住宅着工戸数が前年同月比6.8%減、貸家着工戸数は前年同月比2.9%減となりました。（国土交通省総合政策局建設経済統計調査室発表：建築着工統計調査報告 令和5年9月分）

このような事業環境のもと、当社は、営業面では、新たなクレジットカード会社との業務提携や付帯商品の開発、保証範囲の拡大に努め、新たな収益源の確保に取り組むとともに、既存WEBやアプリ機能の利用率の向上に取り組んでまいりました。

債権管理面では、流動債権比率の抑制を図るため人材の確保と育成に注力し、回収基盤の一層の強化に取り組んでまいりました。

この結果、当第2四半期会計期間の財政状態及び経営成績は、以下のとおりとなりました。

(a) 財政状態

当第2四半期会計期間末の資産合計は、前事業年度末に比べ559,588千円増加の10,033,957千円となりました。

当第2四半期会計期間末の負債合計は、前事業年度末に比べ591,602千円増加の7,900,166千円となりました。

当第2四半期会計期間末の純資産合計は、前事業年度末に比べ32,014千円減少の2,133,790千円となりました。

(b) 経営成績

当第2四半期累計期間の経営成績は、営業収益2,380,888千円（前年同期比7.4%増）となりました。また、利益につきましては、営業利益215,887千円（前年同期比21.2%減）、経常利益276,133千円（前年同期比15.3%減）、税引前四半期純利益276,133千円（前年同期比15.3%減）、四半期純利益182,878千円（前年同期比16.0%減）となりました。

当社の事業セグメントは、家賃債務保証事業の単一セグメントでありますので、セグメント別の記載を省略しております。

キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、1,219,572千円と前年同期と比べ154,259千円（11.2%）の減少となりました。当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの増減要因は、以下のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期累計期間における営業活動の結果、減少した資金は7,760千円（前年同期は204,354千円の収入）であります。この主な増加要因は、税引前四半期純利益276,133千円、営業未収入金の減少額247,766千円、収納代行預り金の増加額561,436千円等であり、主な減少要因は、収納代行立替金の増加額791,761千円、求償債権の増加額216,076千円、営業未払金の減少額136,132千円及び法人税等の支払額123,538千円等であります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期累計期間における投資活動の結果、減少した資金は16,897千円（前年同期は8,104千円の支出）となりました。主な減少要因は、有形固定資産の取得による支出11,975千円等であります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期累計期間における財務活動の結果、減少した資金は118,120千円（前年同期は103,431千円の支出）となりました。この増減要因は、短期借入金の増加による収入100,000千円その他、配当金の支払額による支出53,944千円及び自己株式の取得による支出164,175千円であります。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は以下のとおりであります。

重要な会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前事業年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の重要な会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について、重要な変更はありません。

当第2四半期会計期間の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

(a) 財政状態の分析

（資産）

当第2四半期会計期間末における資産につきましては、前事業年度末に比べ559,588千円増加の10,033,957千円（前事業年度末比5.9%増）となりました。増減の主な要因は、自社保証の拡大等により求償債権が216,076千円増加したこと及び収納代行立替金が791,761千円増加したことによるもののほか、自己株式取得に係る支出他により現金及び預金が142,778千円減少したこと、季節的変動等により営業未収入金が247,766千円減少したこと及び求償債権の増加に伴い貸倒引当金が96,113千円増加したこと等によるものであります。

（負債）

負債につきましては、前事業年度末に比べ591,602千円増加の7,900,166千円（前事業年度末比8.1%増）となりました。増減の主な要因は、収納代行預り金が561,436千円及び短期借入金が100,000千円増加したことによるもののほか、営業未払金が136,132千円減少したこと等によるものであります。

（純資産）

純資産につきましては、前事業年度末に比べ32,014千円減少の2,133,790千円（前事業年度末比1.5%減）となりました。増減の主な要因は、取締役会決議に基づく自己株式の取得を行い160,956千円支出したこと及び剰余金の配当53,929千円によるもののほか、四半期純利益182,878千円を計上したこと等によります。

(b)経営成績の分析

(営業収益)

当第2四半期累計期間における営業収益は、保証債務残高及び新規保証実行件数が伸びた結果、2,380,888千円(前年同期比7.4%増)となりました。

(営業利益)

当第2四半期累計期間における営業費用は、2,165,000千円(前年同期比11.4%増)となりました。営業活動により加盟店へ支払う集金代行手数料が増加したため支払手数料が89,809千円増加(前年同期比13.3%増)したこと、貸倒引当金繰入額が119,547千円増加(前年同期比47.4%増)したこと及び賞与引当金繰入額が13,820千円増加(前年同期比19.5%増)したこと等によります。その結果、営業利益は215,887千円(前年同期比21.2%減)となりました。

(経常利益)

当第2四半期累計期間における営業外収益は、遅延損害金収入が9,463千円増加(前年同期比23.4%増)したこと等により、合計で73,023千円(前年同期比20.1%増)となりました。営業外費用は、支払利息が1,657千円増加(前年同期比21.3%増)したこと等により、合計で12,777千円(前年同期比42.3%増)となりました。その結果、経常利益は276,133千円(前年同期比15.3%減)となりました。

(税引前四半期純利益)

当第2四半期累計期間における特別損益は、前期及び当期とも該当金額がありませんでした。その結果、税引前四半期純利益は276,133千円(前年同期比15.3%減)となりました。

(四半期純利益)

当第2四半期累計期間においては、法人税、住民税及び事業税120,502千円(前年同期比12.3%減)を計上し、法人税等調整額 27,248千円(前年同期は748千円)を計上した結果、四半期純利益は182,878千円(前年同期比16.0%減)となりました。

(c)キャッシュ・フローの分析

当第2四半期累計期間のキャッシュ・フローの分析につきましては、「第2 事業の状況 2 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 (1) 経営成績等の状況の概要 キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりであります。

(3) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期累計期間において、当社が優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について、重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	63,288,000
計	63,288,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (2023年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (2023年11月9日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	17,976,600	17,976,600	東京証券取引所 (スタンダード市場)	単元株式数は100株であります。
計	17,976,600	17,976,600		

(注) 提出日現在発行数には、2023年11月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2023年7月1日～ 2023年9月30日		17,976,600		680,942		435,942

(5) 【大株主の状況】

2023年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数の 割合(%)
アイフル株式会社	京都府京都市下京区烏丸通五条上る高砂町 381-1	6,408,000	36.89
雨坂 甲	大阪府大阪市中央区	1,963,800	11.30
小川 秀男	東京都町田市	544,400	3.13
MSIP CLIENT SECURITIES (常任代理人 モルガン・スタン レーMUFG証券株式会社)	25 CABOT SQUARE, CANARY WHARF, LONDON E14 4QA, U.K. (常任代理人 東京都千代田区大手町1丁 目9-7)	521,400	3.00
高橋 誠一	埼玉県さいたま市大宮区	463,500	2.67
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	422,600	2.43
AGキャピタル株式会社	東京都港区芝2丁目31-19	378,000	2.18
東京短資株式会社	東京都中央区日本橋室町4丁目4-10	371,100	2.14
政岡土地株式会社	大阪府大阪市此花区梅香3丁目27-11	308,700	1.78
岡三証券株式会社	東京都中央区日本橋1丁目17-6	280,000	1.61
計		11,661,500	67.13

(注) 上記の他、当社所有の自己株式605,212株があります。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2023年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 605,200		
完全議決権株式(その他)	普通株式 17,368,500	173,685	
単元未満株式	普通株式 2,900		
発行済株式総数	17,976,600		
総株主の議決権		173,685	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式12株が含まれております。

【自己株式等】

2023年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) あんしん保証株式会社	東京都品川区東品川四丁目 12番4号	605,200		605,200	3.37
計		605,200		605,200	3.37

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1 四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第63号)に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期会計期間(2023年7月1日から2023年9月30日まで)及び第2四半期累計期間(2023年4月1日から2023年9月30日まで)に係る四半期財務諸表について、ひびき監査法人による四半期レビューを受けております。

3 四半期連結財務諸表について

当社は、子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1 【四半期財務諸表】

(1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2023年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2023年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,362,351	1,219,572
営業未収入金	555,756	307,990
求償債権	1,561,797	1,777,874
収納代行立替金	5,345,586	6,137,347
前払費用	38,804	33,494
その他	31,414	25,027
貸倒引当金	585,644	681,758
流動資産合計	8,310,067	8,819,548
固定資産		
有形固定資産	47,405	74,064
無形固定資産	154,714	147,506
投資その他の資産		
繰延税金資産	888,011	915,262
その他	74,171	77,575
投資その他の資産合計	962,182	992,838
固定資産合計	1,164,301	1,214,408
資産合計	9,474,368	10,033,957
負債の部		
流動負債		
短期借入金	350,000	450,000
営業未払金	288,716	152,583
未払金	66,610	79,721
未払費用	28,650	26,834
未払法人税等	135,827	132,431
収納代行預り金	3,555,180	4,116,617
預り金	10,766	15,408
契約負債	2,687,411	2,734,813
賞与引当金	76,859	82,883
保証履行引当金	1 80,056	1 80,554
その他	23,084	22,919
流動負債合計	7,303,163	7,894,766
固定負債		
その他	5,400	5,400
固定負債合計	5,400	5,400
負債合計	7,308,563	7,900,166
純資産の部		
株主資本		
資本金	680,942	680,942
資本剰余金	435,942	435,942
利益剰余金	1,044,468	1,173,417
自己株式	33	160,990
株主資本合計	2,161,320	2,129,312
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	143	136
評価・換算差額等合計	143	136
新株予約権	4,341	4,341
純資産合計	2,165,805	2,133,790
負債純資産合計	9,474,368	10,033,957

(2) 【四半期損益計算書】

【第2四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自2023年4月1日 至2023年9月30日)
営業収益	2,217,062	2,380,888
営業費用	1 1,943,022	1 2,165,000
営業利益	274,039	215,887
営業外収益		
受取利息	8	9
受取配当金	6	7
受取遅延損害金	40,397	49,861
償却債権取立益	14,604	17,979
助成金収入	4,204	570
その他	1,580	4,595
営業外収益合計	60,801	73,023
営業外費用		
支払利息	7,782	9,439
自己株式取得費用		3,219
その他	1,197	119
営業外費用合計	8,979	12,777
経常利益	325,861	276,133
税引前四半期純利益	325,861	276,133
法人税、住民税及び事業税	107,309	120,502
法人税等調整額	748	27,248
法人税等合計	108,058	93,254
四半期純利益	217,803	182,878

(3) 【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自2023年4月1日 至2023年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	325,861	276,133
減価償却費	45,864	26,058
貸倒引当金の増減額(は減少)	13,564	96,113
保証履行引当金の増減額(は減少)	5,257	498
賞与引当金の増減額(は減少)	2,190	6,024
助成金収入	4,204	570
受取利息及び受取配当金	14	16
支払利息	7,782	9,439
自己株式取得費用		3,219
営業未収入金の増減額(は増加)	249,207	247,766
求償債権の増減額(は増加)	5,935	216,076
収納代行立替金の増減額(は増加)	653,630	791,761
前払費用の増減額(は増加)	2,164	5,336
長期前払費用の増減額(は増加)	153	3,786
営業未払金の増減額(は減少)	135,091	136,132
未払金の増減額(は減少)	27,422	15,128
契約負債の増減額(は減少)	22,442	47,401
収納代行預り金の増減額(は減少)	466,853	561,436
その他の資産の増減額(は増加)	10,985	6,387
その他の負債の増減額(は減少)	1,076	2,314
小計	291,937	124,656
利息及び配当金の受取額	14	16
利息の支払額	7,775	9,465
助成金の受取額	4,204	570
法人税等の支払額	84,026	123,538
営業活動によるキャッシュ・フロー	204,354	7,760
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	1,851	11,975
無形固定資産の取得による支出	6,545	4,350
その他	292	572
投資活動によるキャッシュ・フロー	8,104	16,897
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増減額(は減少)	50,000	100,000
配当金の支払額	53,431	53,944
自己株式の取得による支出		164,175
財務活動によるキャッシュ・フロー	103,431	118,120
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	92,818	142,778
現金及び現金同等物の期首残高	1,281,013	1,362,351
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,373,831	1,219,572

【注記事項】

(四半期貸借対照表関係)

偶発債務

- 1 保証債務残高は次のとおりであります。

	前事業年度 (2023年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2023年9月30日)
債務保証額(月額) (注)1	16,405,300千円	16,856,766千円
再保証額 (注)2	672,919千円	670,523千円
保証履行引当金	80,056千円	80,554千円
差引額	16,998,163千円	17,446,734千円

(注)1 賃借人の支払家賃等に対し債務保証を行っております。

- 2 ライフカード株式会社による債務保証(賃借人の一定期間の未収家賃等に対するもの)について再保証を行っております。

(四半期損益計算書関係)

- 1 営業費用のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自2023年4月1日 至2023年9月30日)
支払手数料	674,467千円	764,276千円
貸倒引当金繰入	252,208千円	371,755千円
保証履行引当金繰入	5,257千円	498千円
給与手当	251,899千円	262,604千円
賞与引当金繰入	70,886千円	84,707千円
減価償却費	45,864千円	26,058千円

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

- 1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自2023年4月1日 至2023年9月30日)
現金及び預金	1,373,831千円	1,219,572千円
現金及び現金同等物	1,373,831千円	1,219,572千円

(株主資本等関係)

前第2四半期累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年6月17日 定時株主総会	普通株式	53,929	3.00	2022年3月31日	2022年6月20日	利益剰余金

2 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年6月16日 定時株主総会	普通株式	53,929	3.00	2023年3月31日	2023年6月19日	利益剰余金

2 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3 株主資本の金額の著しい変動

当社は、2023年5月11日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式取得に係る事項について決議し、普通株式605,100株を取得しました。この結果、当第2四半期累計期間において自己株式が160,956千円増加し、当第2四半期会計期間末において自己株式が160,990千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

当社は、家賃債務保証事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当第2四半期累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

当社は、家賃債務保証事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、以下のとおりであります。

前第2四半期累計期間(自2022年4月1日 至 2022年9月30日)

(単位:千円)

	営業収益
初回保証料	919,891
更新保証料	620,985
月額保証料	661,137
その他	15,047
顧客との契約から生じる収益	2,217,062
その他の収益	
外部顧客への売上高	2,217,062

当第2四半期累計期間(自2023年4月1日 至 2023年9月30日)

(単位:千円)

	営業収益
初回保証料	972,396
更新保証料	659,125
月額保証料	732,190
その他	17,175
顧客との契約から生じる収益	2,380,888
その他の収益	
外部顧客への売上高	2,380,888

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	12円12銭	10円44銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	217,803	182,878
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	217,803	182,878
普通株式の期中平均株式数(株)	17,976,488	17,520,183
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前事業年度末から重要な変動があったものの概要		

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年11月8日

あんしん保証株式会社
取締役会 御中

ひびき監査法人

東京事務所

代表社員
業務執行社員

公認会計士 岡田 博憲

業務執行社員

公認会計士 梶山 嘉洋

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているあんしん保証株式会社の2023年4月1日から2024年3月31日までの第21期事業年度の第2四半期会計期間（2023年7月1日から2023年9月30日まで）及び第2四半期累計期間（2023年4月1日から2023年9月30日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、あんしん保証株式会社の2023年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき四半期財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

・主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

・継続企業的前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論

付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

・四半期財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1．上記の四半期レビュー報告書の原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2．XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。